

平成 令和涸沢山行

昨年の10月頃、2019年の5月連休は10日間と報道されて、私も古希最後の春山だと思って、10日間を涸沢ベースの山行と決めた。

当初前半を土屋、後半を西岡としたが、西岡氏さんが昨年の11月骨折事故により、今回の山行には無理となり、急遽斉藤さんをお願いした。

目的は初心者から上級者まで、誰もが入山して、各自の目的と条件に合わせて、涸沢のベースのテントに入り、時を共有出来る場としたかった。

70年代、80年代はよく合宿として、山行を企画して、鍋を囲み山を歩き回っていた。今はそんな元気はない、せいぜい北尾根か、北穂高～奥穂高が精一杯の所が、今の力量だと思っていた。

各自が自由に参加出来る事から、山行 交通 食糧 燃料を自己管理として、誰がどの日時、山行目的を持って参加して来るか、フタを開けて見なければ分からない、名前も顔も知らない、まして力量の判断が未知数である。

ルートとして、初心者コースを涸沢～涸沢岳のピストン、経験あり奥穂高 北穂高、上級者として、北穂高～奥穂高の縦走、熟練コースとして北尾根、槍ヶ岳～北穂高～涸沢を考えていたが、熟練コースは時間と体力が要求される、希望者が無く、一安心。

参加を呼びかけて、フタを開けて見ると、女性陣が多い、山ガールの行動力はちば山の会にも生きている。

先陣として佐藤さんパーティ、後半を狩野さんパーティ、中間を斉藤さんパーティ佐藤(美)さん金さん 田中さんと決まり、計画書を作成したが煩雑となり、結果的に山行管理者に大変ご迷惑をかけた。

前半は晴れて、北穂高～奥穂高の縦走には我々を含めて、2パーティのみ、ルートファイニングに時間がかかる、ザイルとカメラを肩がらみにして縦走中、ザイルが必要な所で、滝谷にザイルを放り投げた所、私のカメラも滝谷に飛んで行った、幸い滝谷(崖ぶち)の1歩手前で停止、回収出来たが、シャッターが切れない(諦めるしかない)。

佐藤さんパーティが下山後、ジャボテントは私1人寒い、テントの中にツェルトを張って暖を取る、30日平成最後の日、1日中雨(読書)、田中さんが入山予定だが、18:30まで待つが入山なし、空しくステーキを焼いて酒をチビリ チビリで令和を迎えた。

斉藤さんパーティは雨の中入山、悪天候であつたが、後半は天候に恵まれていた(涸沢のパロラマ写真を見て下さい)。

狩野さんパーティも天候に恵まれていたが、最悪の状態は田中さん、1人で運転して沢渡まで来たが、雨 雨 翌日も雨と知って、沢渡から千葉へUターン(お疲れ様でした)。

涸沢でテントを10日間の設営は無事終了したが、各パーティがテントの中で時を、共有する事は出来なかつた。

この山行が各自にとって、次のステップになれば幸いです

土屋